

指導事項を明確にした小学校国語科の授業づくり(3月)

新学習指導要領全面実施直前です！

国語科の目標を再確認しましょう

分からない言葉や具体のイメージが明確でない部分はありませんか？

国語科の目標は...

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 日常生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
- (2) 日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。
- (3) 言葉がもつよさを認識するとともに、**言語感覚を養い**、国語の大切さを自覚し、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

「言語感覚を養う」とありますが、具体的にどのような力を子供に付けたいのでしょうか。



「言語感覚」とは言語で理解したり表現したりする際の正誤・適否・美醜などについての感覚のこと

付けるべき力は

◇具体的な言語活動の中で、相手、目的や意図、場面や状況などに応じてどのような言葉を選んで表現するのが適切かを**直感的に判断する力**

◇話や文章を理解する場合に、そこで使われている言葉が醸し出す味わいを**感覚的に捉える力**

言語感覚を養うために教室で使いたい一言

「この表現、どう思う？」 「本当に適切かな？」 「一番ぴったりかな？」

言語感覚が育っている学級の日常



まずは子供の直感的、感覚的な捉えを大切にしましょう。

意味がよくわからないな。



なんとなくしっくりこない。



伝えたいことがよくわかる！



正誤、適否、美醜などの検証の視点を与えることで、一人一人が自分なりのものの見方や考え方を形成できるようにしましょう。

主語が抜けていたり、誤字・脱字が多かったりするので読みづらいんだな。



親しい相手にむけての文章なのに、言葉が硬すぎるのかな。



言葉の選び方や言い回しが上手だな。この表現を使ってみよう。



言語感覚を鍛えるための手立てとして、

- ◇多様な場面や状況における学習の積み重ね
- ◇継続的な読書
- ◇他教科の学習や教育活動全体と関連させるなどが有効です。(学習指導要領解説より)



それに加えて、

教師自身の言語感覚を磨くことが大切です！



子供の表現が適切かどうかを判断し評価できますか？
子供の表現を味わい深く捉えていますか？

教師は子供の言語モデルです。